

全日本空輸株式会社様(以降「ANA」)は、「安心」と「信頼」を基礎に、「価値ある時間と空間を創造」「いつも身近な存在」「世界の人々に『夢』と『感動』を届ける」を基本理念とした事業を推進しています。

また、グループ安全理念として、「安全は経営の基盤であり、社会への責務である」「私たちはお互いの理解と信頼のもと、確かなしくみで安全を高めていきます」「私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により、安全を追求します」の三点を上げています。

これらの基本理念、安全理念を貫くため、「システム開発および運用面においても、常に効率化と品質向上に取り組んで来ています」と言う、全日空システム企画株式会社の品質監査室専門部長の阿部恭一氏に伺いました。

現場に負荷をかけない内部統制／セキュリティ対策を目指して

パワーセキュリティ®「POWERBROKER」導入の背景

ANAにはIT関連部門として、IT推進室(システム企画担当)、全日空システム企画(システム開発および運用)、ANAコミュニケーション(各種端末システムの設置)という3つの部門／関係会社が存在し、それぞれが役割分担する形で、グループ全体の円滑な事業展開を支える情報システムをサポートしています。

「飛行機を安全に飛ばす」というANAの一番の事業目的を達成するため、旅客者の座席予約管理、飛行機の運行管理、整備作業管理などをはじめ、非常に詳細にわたる業務のITシステム化が手掛けられています。

2010年には、羽田に第四滑走路が完成予定です。我が国の航空事業への期待の現れでしょうが、航空業界への要望もますます高くなると考えられます。こうした要請に応えるANAの対応には、内部統制／セキュリティ対策を配慮したITシステムの拡充計画も含まれているとのことでした。

特にANAでは、個人情報漏洩防止に早くから着手していますが、内部統制／セキュリティ対策を厳しく求めるSOX法／J-SOX法への対応に、パワーセキュリティ®「PowerBroker®」を活用しています。

現行システムに負荷をかけない

— PowerBroker®を選択した理由は？

阿部 ずばり、既存の現行情報システムに負荷なく導入できる内部統制／セキュリティツールだからです。既存の現行システムのアプリケーション性能／処理スピードを落とすことなく、かつ、一切の負荷を掛けることもなく、独立したシステムとして内部統制／セキュリティ対策を実行してくれる点です。

内部統制のためにログ取得をするツールが、多くのベンダーから提供されています。当然、自社製品については自信を持っていますから「性能が良いですよ」と言います。「どう良いのですか」と質問しますと、「3～5%の負荷で済みます」という回答が返ってきます。

私は「5%も負荷が掛かるのですか」と問い直します。と言いますのは、ANAで処理しているサーバは高負荷、高トラフィックの業務システムであり、5%のさらなる負荷による営業損失が無視できないからです。

専門部長 阿部恭一 様

全日空システム企画株式会社 品質監査室

— 導入にあたり留意したのは？

阿部 統制を掛けられる側は、どちらかというと制限を掛けられるという嫌なイメージがありますので、システム現場にとってもメリットのあることを示していく必要があると思います。

情報システムの内部統制というと、すべてのユーザを対象に考えますが、その中でも特に考えなければならないのは、アプリケーションで権限が制限されている業務ユーザではなく、オールマイティの権限を持つシステム保守要員です。

ANAの多様なサービスを提供するシステム保守要員はその中でもプロ中のプロでもありますので、全面的な理解と協力を求めるために、「こうしたツールの導入は、万が一何かあった時に保守要員を守るソリューションとなり、これによって保守要員の作業内容を証明することができる」という姿勢で臨んでいます。

即座に確認できるセキュリティ対策

— 「作業内容を証明する」とは？

阿部 内部統制下では、不測の事態が起こった場合には、フォレンジックと言って証跡ログを辿って行くことで、トリガーとなった作業を正確に突き止めることができる対策が求められています。

そうした場合、真っ先に確認されるのがシステム保守要員の作業内容です。そこで私どもでは、PowerBroker®の活用によって情報システムの中核で作業する保守要員の作業内容すべてが操作ログとして残るように致しました。

不測の時には、保守要員のターゲットサーバへのアクセスから、システム資源へのアクセスまで、すべての作業内容が即座に確認できる体制となっています。

一般的に「作業範囲を逸脱していないことの証明は難しい」と言われますが、内部統制／セキュリティ対策の要で作業する保守要員の作業内容を証明することで、これを実現します。最終的には、こうした作業を積み重ねていくことで、組織全体の内部統制／セキュリティの確保が出来るようにしています。

協調して情報セキュリティを守る

—PowerBroker®の基本機能を活かすために

阿部 私どもの内部統制／セキュリティ対策で大きな役割を果たしているのがPowerBroker®です。このツールの本来の基本機能は、サーバへのアクセスログ／操作ログの取得ですが、ただ単にログを取りっぱなしでは、より効果的な内部統制／セキュリティ対策とは言えません。

当初より、現状監視(ログ取得)→ログ分析→監視体制の見直し→対策修正という内部統制／セキュリティ対策のPDCAサイクル導入を考えてきました。

しかしPowerBroker®の場合、キーストロークをそのままログ取得してしまうので、そのままだと膨大な量のデータ分析をしなくてはなりません。そこで、保守要員、システム技術者の作業内容や仕事のやり方をヒアリングし、適切なキーワードを見つけ出し、効果的なログ分析ができるように致しました。内部統制／セキュリティ対策のポイントは、システム現場と対峙姿勢になることではなく、社員が協調して情報セキュリティを守っていくという姿勢が必要だと思います。

パワーセキュリティ®

アカウントマネージャ

POWERBROKER®

ログマネージャ

今後の展望 「現場のシステム要員に負荷をかけない」を踏襲

J-SOX 法で要求されている主な内容は、IT システム統制の側、立場からしますと、IT システムへのアクセス権限の管理とデータ変更記録の確認、ログの取得管理だと考えてよいと思います。

IT システムへのアクセス権限の管理につきましては、アプリケーション業務システムレベルで対応しています。また、保守作業員による直接的なデータ変更のログ証跡の取得については PowerBroker®で十分対応できていると考えています。業務利用者側の統制としては、利用者が正規の手続きを使って、正規のトランザクション処理を行い、正規のデータを変更したとなりましたら、これは IT システム統制の側、立場からでは手の打ちようがありません。これは業務統制という側面に対応をしています。

すでに、現場のシステム保守要員に負荷が掛からないような配慮をしていますが、今後とも、新たな内部統制／セキュリティ対策ツールを入れていく上でも、この基本的な考え方は踏襲していきたいと考えています。(阿部氏談)

総販売元 株式会社ブロード

<http://www.broad-corp.co.jp/>

〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-30 サウスヒル永田町 7F

TEL:03-6205-7463(代表)/FAX: 03-6205-7465

お問い合わせは